

原強プ第36号  
平成24年2月27日

島根県知事 溝口善兵衛様

中国電力株式会社  
取締役副社長  
原子力強化プロジェクト長  
岩崎恭久

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する  
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成24年2月14日に開催された、第6回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第6回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

以上

## 第6回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

- 開催日時 平成24年2月14日(火) 14時00分～17時10分
- 開催場所 中国電力株式会社島根支社 5階集会室(島根県松江市母衣町115)
- 出席者 [地元委員] 浅沼委員, 石原委員, 亀城委員, 曾我部委員, 前田委員, 三好委員  
[一般委員] 宇於崎委員, 中谷内委員, 樋口委員, 増田委員  
※ 首藤委員は欠席  
[社内委員] 岩崎原子力強化プロジェクト長, 松井副社長, 古林常務

### ○ 議事概要

#### 1. 開催挨拶(岩崎)

- ・ 二度と同様の問題を起こしてはならないという強い決意の下, 点検不備問題の再発防止と信頼回復に取り組んできており, 再発防止対策の主な施策であるEAM(統合型保全システム)を用いた定期検査を開始するなど実績を重ねてきた。
- ・ 本会議では再発防止対策の実施状況および安全文化醸成活動の実施状況, 評価, 来年度の活動計画について説明したい。
- ・ 福島第一原子力発電所の事故を踏まえた対応も進めており, 引き続き新たな知見にも適切に対応し, 安全確保に万全を期したい。

#### 2. 出席委員の確認

事務局より資料1に基づき参加委員の確認および首藤委員の欠席を案内した。

### 3. 議事

資料2に基づき、電源事業本部部長 福原および原子力強化プロジェクト部長 岡田から議題1（平成23年度再発防止対策および原子力安全文化醸成活動の実施状況・評価・次年度計画について）を、電源事業本部専任部長 北野から議題2（福島第一原子力発電所事故を踏まえた島根原子力発電所の対応状況他について）を説明した。

主な意見は、以下のとおり。

#### (1) 議題1「平成23年度再発防止対策および原子力安全文化醸成活動の実施状況・評価・次年度計画について」

- ・ 問いかける、報告する文化は根付いてきていると思う。今後は、本社と現場との距離感を縮めることが課題と感じる。
- ・ 「褒める文化」という言葉には、何となく照れくさい、わざとらしい響きを感じ、率直に話し合う風土がまだ醸成されていないのではないかと感じる。仕事の仕方自体が「文化」だと思う。
- ・ 「褒める文化」については、他企業や病院などでも同様の取り組みを行っているところもあり、現場のモチベーションを上げる意味のあるものだと思う。
- ・ 社員アンケートの評価結果では、約8割の人が再発防止対策の取り組みにより意識が変わった点を基に評価をしているが、逆に言えば約8割の人はこれまでの意識が薄かったという見方もあるのではないか。一人ひとりのモチベーション・意識を更に改善する施策・社員教育が必要。安全文化は一時的に改善しても、長期的には風化していく心配がある。
- ・ 一般的に不祥事発生後の改善を評価するアンケート調査の定量的分析においては、自己評価に対する甘えや回答への期待を感じるバイアス（偏り）がかかる傾向があり、あまり意味を持たないと言われている。大切なのは、評価・分析する側が、アンケートの少数意見、特に否定的な意見に着目して対応していくこと。
- ・ 点検不備問題の再発防止対策は、マンネリ化防止を考えるべき。
- ・ マンネリ化を危惧する状況というのは、逆に言えば一定の改善が進んだ状況と捉えられる面もある。マンネリ化を防止するには、他社との交流など外部との接触機会を取り入れることも重要。
- ・ 不適合管理の件数、原因をどう捉えるべきか。さらに分析・評価を行い管理に活かしていく必要がある。

## (2) 議題2「福島第一原子力発電所事故を踏まえた島根原子力発電所の対応状況他について」

- ・ 3.11以降は、万一、福島第一と同様な事故が起きた時に影響のある範囲を「地元」と定義し直した対応が必要ではないか。また、事故を起こさない対応を優先するという考え方は正しいが、事故が起こってしまったからでは間に合わないの、非常時の広報対応について平常時から優先順位を上げて検討しておく必要がある。
- ・ シビアアクシデントが起きない対策はもちろん重要だが、起きた時にどうすれば良いのか地元を示してもらいたい。自治会総会や公民館など積極的に説明に出向いてほしい。
- ・ 原子力発電所を最初に立地した時代に立ち返ったゼロベースでの地元対応が必要になっている。現在のエネルギー事情、なぜ島根に誘致・立地したのかなど、原点に戻った対応が必要。
- ・ シビアアクシデント対応の説明は、一つの対策が機能しなかったら総てが機能しない状況とならないよう多重防護を考えている点を明らかにして説明する方がわかりやすい。
- ・ 今は避難について検討する時間があるので、対象範囲を同心円ではなく、地形も含めてじっくり評価して、科学的かつ現実的な避難範囲・避難先・経路を考えるべき。
- ・ 津波対策は十分だと思う。むしろ直下型地震対策を心配しておりストレステストの結果に注目している。配管取替や電気系統の強化をしっかりとって欲しい。
- ・ 緊急時災害対策要員は、道路や橋が使えないケースを含めて発電所への到着所要時間などを十分検討し準備してほしい。

## 4. 閉会あいさつ

岩崎より、積極的な意見・提言へ感謝の意を述べた。

以上